

東洋農機

塗装ラインなどを新設

工場の増築が完了



山田社長

東洋農機㈱(山田政功社長・北海道帯広市西22条北1の2の5)は、昨年の秋よりスタートした工場の増築がこのほど完了し、新しいラインでの生産を開始した。

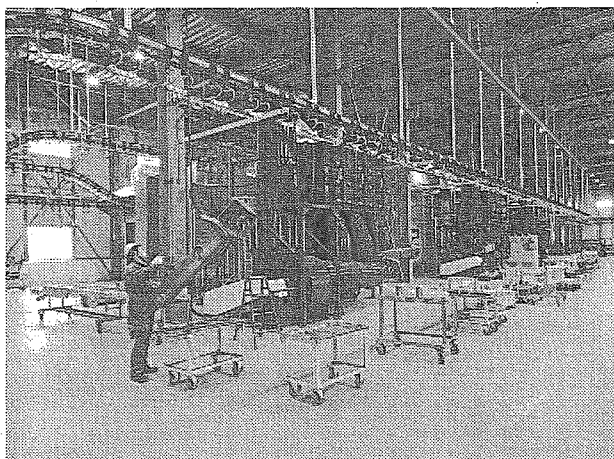
同社は、明治42年に創業し、北海道農業の発展とともに歩み、現在では、ブームスプレーヤ、ポテトハーベスタ、ディスクハローなど27種類約160型式の製品を自社で開発し、設計から製造までの一貫した生産を行っている。



増築された工場の外観

今回の工場の増築は、

北海道内の農家に高性能な大型機械の導入が進展していることから、大型機械の生産が可能な設備が必要となったため、従来の工場1万坪にプラスして、今回、天井までの高さが10メートルある建物5000平方メートルを拡張したもの。組み立てライン、塗装ライン、製品検査場が新たに増設され、すでに3月末から「けん引スプレーヤ」などの生産に利用されている。塗装作業以降が従来の工場から移動し、全体とラインの長さが360メートル伸びた。粉体塗装設備は、赤色、灰色、その他の色があり、機2台など。



新たに設けられた塗装ライン

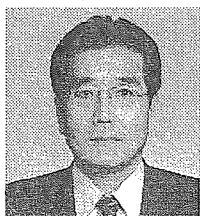
「経営規模の拡大に伴い、道内で使用される機械は大型化が一層進むと」  
同社の山田社長は、  
「1分間1・5メートルで回すと4時間の工程と予想されるために、大型機械の生産ができる設備を整えた。今後さらに道内の農業、農家に貢献していきたい」と話しており、期待が高まっている。

東洋農機

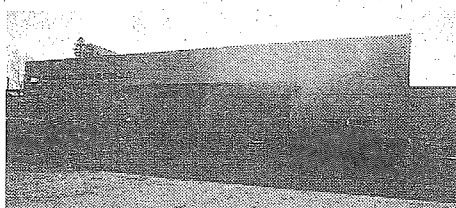
# 工場を増設、4月に本格稼働

## 粉体塗装施設や組立工場など

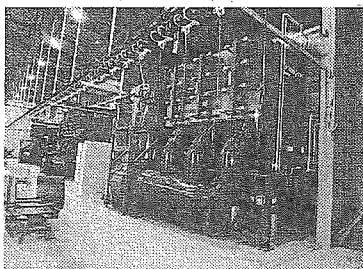
東洋農機(株)は北海道帯広市西22条北1-2-5・☎0155(37)3191・山田政功社長は、本社工場に塗装施設を増設し4月から本格稼働した。20年以上前から使用され老朽化した塗装施設を粉体塗装施設に更新。また製品検査場や組立工場などを新設した鉄骨平屋建ての延床面積5100平方メートルの本社工場の組立工場と隣接する形で新設した。新たな工



山田社長



増設された新工場



粉体塗装設備を導入で作業を効率化

作機械等の導入により、生産性向上や大型機械対応による効率化により、より円滑な生産を行う。現状、フル稼働が続くなど好調を維持する中で、これらの増設による生産増強により、効率を倍増を目指す。今回は平成24年度補正予算「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業費補助金」を活用した。

塗装工場には、小物塗装ラインを設置。3基設置で赤白黒に塗装する。

またショットブラスト2機も設置した。リン酸塩処理の塗装前処理設備一式を設置した。元の塗装設備の設置箇所には、大物の粉体溶剤塗装施設や溶接を設置した。その他、導入されたのは、レーザー加工機2台、スクリーンコプレス、小型形鋼複合機、ベンディングマシン、溶接ロボット、複合旋盤、マシンングセンターなどを導入した。なお総事業費は非公表としている。